食文化が面白かった沖縄旅行

旭川市医師会
旭川医療センター
金子（かねこ）　未波（みなみ）

今年の２月21日から24日にかけてプロ野球の春季キャンプを見るために沖縄へ行き、いろいろと思い出深い出来事があったので投稿します。

沖縄に到着して驚いたのは、やはり北海道とは比べ物にならない暑さだった。２月なのに気温は20度を超えていて、太陽もかなり近く感じた。重い荷物を抱えながら首里城公園に行き、アザナと呼ばれる物見台から那覇市内を見下ろすと、周囲の建物の密度に驚いた。

目当ては北海道日本ハムファイターズのキャンプだったので、１日目に名護市内へたどり着く必要があった。那覇市内からバスで行くために、バス停の近くで店を探して彷徨っていると沖縄にしかないファストフード店であるＡ＆Ｗが目に入った。これ幸いと入店し、Ａ＆Ｗバーガーとスーパーフライ（フライドポテト）、名物のルートビアを注文して席についた。ハンバーガーは具がぎっしりと詰まっていて、スーパーフライも時間が経ってもしんなりし過ぎることがなく美味しかったのだが、問題はルートビアだった。湿布薬と北海道でいうところのガラナを混ぜたような味なのだ。おまけに、材料に含まれているハーブの影響なのか飲んでいるうちに動悸がしてきた。

自分で注文した物を残すのは忍びないので完飲し、店から出てバスを待っているうちに動悸は落ち着いた。どういうわけかＡ＆Ｗではルートビアがおかわり自由だったので、一定の需要はあるようだ。

無事に名護市内のホテルに到着した翌日、朝からバスに揺られて沖縄美ら海水族館に行った。珊瑚礁やクラゲ、ジンベエザメを見て建物から出たのは11時頃だったが、その頃には多くの観光客がぞろぞろと美ら海水族館に向かって歩いているところだった。多い時は１日に約１万人が来場する施設というのを知ったのはその後だった。

美ら海水族館から徒歩10分ほどの場所にある備瀬のフクギ並木へ行ってみると、季節が冬であることなど関係ないかのように青々とした葉がひしめき合っていた。静かな並木道をゆっくり歩き、道なりに進んだ所にあった福助の卵焼きという店で昼食を摂った。普段暮らしている場所と全く異なる景色を見ながら食べたポーたまおにぎりはとても美味しかった。

タクシーを捕まえて、オープン戦が行なわれるエナジックスタジアム名護へと移動した。暑い中でも客入りは上々で、皆で応援していたがこの日ファイターズは広島カープに敗北してしまった。

夕食目当てで沖縄料理店に行き、メニュー表を見ると「ヤギ肉の刺身」と書いてあった。好奇心から注文すると、すだちや生姜、にんにくとともに生のヤギ肉が出てきた。意外にも無臭だったが、薬味と醤油をつけて口に入れてみるとラム肉よりも野性味のある味がした。以前台湾で食べた羊肉に味が近いと感じたので調べてみると、地域によってはラムとマトンが山羊を指しており、台湾では羊肉と書いていても使われているのは山羊肉が多いということだったので得心がいった。

３日目はオープン戦後に那覇市内へ移動する予定だったので、チェックアウトしてそのまま球場へと移動した。この日の先発は私が応援している達投手だったので、良く見える席に座るために早めに球場へ行ったが午前９時30分時点で大行列が形成されていた。諦めてサブグラウンドに行ってみると達投手が練習をしていたので結果オーライだった。

オープン戦での好投を見届けて、球場から程近い名護バスターミナルへと移動した。この時も那覇市内へ向かうバスが運良く来ていたので予定より早く出発することができた。

高速道路が渋滞していたので那覇市内のホテルに到着した頃には夕食時だった。沖縄県はステーキ屋が多いと聞いていたのでこの日はステーキを食べると決めていた。

ホテルの近くにあったステーキハウスに行ってみると、すぐに店内へ案内してもらえた。ここで驚いたのがステーキセットを注文するとご飯とサラダ、２種類のスープがセルフサービスで食べ放題なことだった。牛肉と野菜が沢山入っている牛汁と呼ばれるスープが非常に美味しかったので、ステーキが100gだったのに対し牛汁を３杯も食べてしまった。

４日目はお土産を買い込んだことで重たくなったリュックを背負って那覇空港へ移動した。この時リュックの中には、北海道に帰った後も沖縄限定の飲み物が飲みたいと思っていたのでペットボトル飲料が沢山詰まっていた。沢山のペットボトルとともに暑い沖縄からまだ涼しい北海道に帰ってきた時は爽やかな気持ちだった。

人生で初めて訪れた沖縄は主に食文化で驚くことが多かったが、町の至るところにあったシーサーや白い砂浜、エメラルドグリーンの海などの別世界のような景色が今はとても恋しい。